

彩 鸞 の 間



「彩鸞(さいらん)の間」は、暖炉の両脇や大鏡の上部に飾られた「鸞(らん)」と呼ばれる鳳凰(ほうおう)の一種である霊鳥(れいちょう)から名づけられました。

条約調印、諸会議、記者会見のほか、来客の控えの間など多目的に使用されます。

部屋の広さは約160㎡で、天井が高く(約9m)壁にはめ込まれた10枚の鏡が部屋を奥深く、広く感じさせます。

部屋の装飾は、19世紀初頭ナポレオン一世の帝政時代を中心にフランスで流行したアンピール様式です。

天井、壁、柱などには、石膏金箔張りレリーフで構成された、天馬、甲冑(かっちゅう)、武器、楽器などの華麗な装飾が施されています。

明治の創建当時から電気設備と暖房が完備しており、暖炉は排気の役目をしていました。



安倍総理・トルコ共和国エルドアン首相記者会見
(2014年1月7日)



羽衣の間



「羽衣(はごろも)の間」は、謡曲「羽衣」の景趣をフランスの画家に描かせた天井画に由来します。

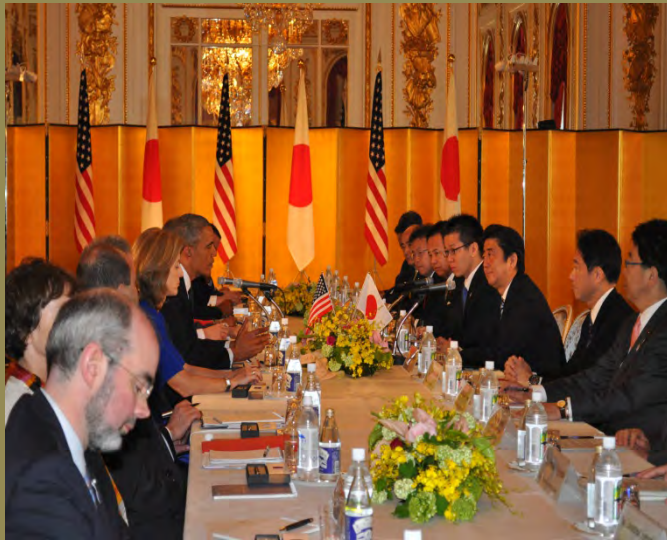
首脳会議の全体会合、レセプション、雨の日の歓迎式典、晩餐会の際の食前・食後酒の場などに使用され、創建当時は舞踏室と呼ばれていました。

部屋の広さは約330㎡で、天井の高さは7.4mと迎賓館では東側にある「花鳥の間」とともに最大の部屋です。

部屋の装飾は、フランス18世紀末様式を取り入れた白壁と金箔に深紅の色使いで、直線的で明快な構成となっています。

壁飾りやシャンデリアには、音楽を題材にして、楽器のほかに仮面や花かご、リボン等がモチーフに用いられています。

迎賓館の大型シャンデリアは、天井裏から独立した鉄骨で組み立てられていることから、地震にも十分耐えられる構造となっています。



安倍総理・オバマ米国大統領首脳会議
(2014年4月24日)

